

# 2012年度「キャンパスライフに関するアンケート調査」

## 1年次調査の概要

- 調査対象者 学部 2012年度生全員。
- 調査方法 2012年度秋学期成績通知書交付時に調査票を配布し、その場で学生に回答してもらい回収した。
- 回収状況 有効回収数は3862票であり、在籍者数（2013年2月28日現在）に対する回収率は63.6%であった。

### 学部別回収状況（1年次調査）

	有効票数	在籍者数	回収率
神学部	51	61	83.6%
文学部	523	732	71.4%
社会学部	378	416	90.9%
法学部	471	857	55.0%
経済学部	371	925	40.1%
商学部	472	830	56.9%
政策学部	114	401	28.4%
文化情報学部	249	324	76.9%
理工学部	549	757	72.5%
生命医科学部	231	284	81.3%
スポーツ健康科学部	129	156	82.7%
心理学部	143	171	83.6%
グローバル・コミュニケーション学部	135	157	86.0%
所属不明	46	—	—
合計	3862	6071	63.6%

# 2012 年度 キャンパスライフに関するアンケート調査(2012 年度生用)

## アンケートご協力をお願い

同志社大学学習支援・教育開発センターでは、より良い1年次教育プログラムの開発を目的として、みなさんが1年間学ばれた時点で本学の教育に対してどのように感じておられるかを把握するため、調査を実施しています。回答いただいた内容は、すべて数値に置き換えられ統計的に処理されますので、みなさんの回答が他の人に知られることは絶対にありません。また、調査結果が本学の教育改善以外の目的に使用されることもありません。本学の教育に対するみなさんの意見を知るための貴重な資料となりますので、ご協力くださいますよう、よろしくお願いたします。

- 回答の仕方は、質問文の指示にしたがってください。
- ほとんどの質問は、あてはまる番号に○をつけてお答えください。
- いくつかの質問には、数値や文字を記入してください。
- 回答したくない質問には、無理に答えていただかなくて結構です。
- 質問は全部で28問あります。10分程度で回答できる内容ですから、アンケート用紙を受け取られたら、すぐに回答していただき、所定のアンケート回収箱に入れてください。

同志社大学学習支援・教育開発センター  
E-mail: ji-kyoik@mail.doshisha.ac.jp  
TEL: 075-251-3277

Q1. あなたが所属している学部・学科について、あてはまる番号に○をつけてください。

- |                |                       |                             |
|----------------|-----------------------|-----------------------------|
| 1. 神学部神学科      | 12. 法学部法律学科           | 23. 理工学部エネルギー機械工学科          |
| 2. 文学部英文学科     | 13. 法学部政治学科           | 24. 理工学部機能分子・生命化学科          |
| 3. 文学部哲学科      | 14. 経済学部経済学科          | 25. 理工学部化学システム創成工学科         |
| 4. 文学部美学芸術学科   | 15. 商学部商学科            | 26. 理工学部環境システム学科            |
| 5. 文学部文化史学科    | 16. 政策学部政策学科          | 27. 理工学部数理システム学科            |
| 6. 文学部国文学科     | 17. 文化情報学部文化情報学科      | 28. 生命医科学部医工学科              |
| 7. 社会学部社会学科    | 18. 理工学部インテリジェント情報工学科 | 29. 生命医科学部医情報学科             |
| 8. 社会学部社会福祉学科  | 19. 理工学部情報システムデザイン学科  | 30. 生命医科学部医生命システム学科         |
| 9. 社会学部メディア学科  | 20. 理工学部電気工学科         | 31. スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科      |
| 10. 社会学部産業関係学科 | 21. 理工学部電子工学科         | 32. 心理学部心理学科                |
| 11. 社会学部教育文化学科 | 22. 理工学部機械システム工学科     | 33. グローバル・コミュニケーション学部英語コース  |
|                |                       | 34. グローバル・コミュニケーション学部中国語コース |
|                |                       | 35. グローバル・コミュニケーション学部日本語コース |

Q2. あなたの性別について、あてはまる番号に○をつけてください。

1. 男性                      2. 女性

Q3. あなたは自宅通学ですか、自宅外通学ですか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 自宅通学                      2. 自宅外通学

Q4. あなたの2012年度終了時点での累積 GPA はいくらでしたか。あてはまる番号に○をつけてください。

- |                   |                   |                   |
|-------------------|-------------------|-------------------|
| 1. 1.00 ポイント未満    | 2. 1.00～1.49 ポイント | 3. 1.50～1.99 ポイント |
| 4. 2.00～2.49 ポイント | 5. 2.50～2.99 ポイント | 6. 3.00 ポイント以上    |

Q5. あなたの高校での成績は、学年の中で大体どのくらいでしたか。次の中から最も近いものを選んでください。

1. 上位の方    2. 中の上ぐらい    3. 中ぐらい    4. 中の下ぐらい    5. 下位の方    9. わからない

Q6. あなたは、どの入試を受けて本学に入学しましたか。あてはまる番号に○をつけてください。

- |                         |   |
|-------------------------|---|
| 1. 一般入試                 | 8. 法人内諸学校等推薦入試(同志社女子高校)                               |
| 2. 指定校推薦入試              | 9. 法人内諸学校等推薦入試(同志社国際高校)                               |
| 3. 推薦選抜入試(公募制)          | 10. キリスト教主義学校連携ネットワーク推薦入試<br>(法人内諸学校等推薦入試(新島学園高校)を含む) |
| 4. AO入試                 | 11. スポーツ推薦選抜入試  |
| 5. 大学入試センター試験を利用する入試    | 12. 社会人特別選抜入試   |
| 6. 法人内諸学校等推薦入試(同志社高校)   | 13. 外国人留学生入試  |
| 7. 法人内諸学校等推薦入試(同志社香里高校) |   |

Q7. あなたの第一志望校はどこでしたか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 現在、在籍している学部(学科)    2. 本学の他学部(他学科)    3. 私立他大学    4. 国公立大学  
5. 短期大学    6. 専門学校    7. その他(具体的に )

Q8. あなたは現役ですか、浪人ですか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 現役    2. 一浪    3. 二浪    4. その他(留学生、社会人など)

Q9. あなたが大学に進学した理由として以下の項目はどれくらい重要ですか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	まったく重要ではない	あまり重要ではない	いづらか重要である	非常に重要である
1) 就職に有利だから	1	2	3	4
2) 周りの人たちが進学するから	1	2	3	4
3) 親の希望だから	1	2	3	4
4) すぐに働きたくなかったから	1	2	3	4
5) 大学で学ぶ内容に興味があったから	1	2	3	4
6) 幅広い教養を身につけたかったから	1	2	3	4
7) 専門的知識を身につけたかったから	1	2	3	4
8) 学生生活を楽しんでみたかったから	1	2	3	4
9) 資格を取るために必要だったから	1	2	3	4
10) 大卒の学歴を得たいから	1	2	3	4

Q10. あなたは志望校として本学を選択するにあたって、どのような点を重視しましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- |                  |                  |                   |
|------------------|------------------|-------------------|
| 1. 建学の精神や理念に惹かれた | 7. 研究面に優れた教員がいる  | 13. 高校から推薦入学制度がある |
| 2. イメージが良い       | 8. 就職に有利である      | 14. 自宅から通学できる     |
| 3. 自分の好きな分野を学べる  | 9. 親や知人の出身校である   | 15. 京都の文化に触れたい    |
| 4. 先端の学問を学べる     | 10. 親や知人に勧められた   | 16. その他           |
| 5. 将来性の高い分野を学べる  | 11. 資格が取れる       | (具体的に )           |
| 6. 教育面に優れた教員がいる  | 12. 自分の偏差値にふさわしい | 17. とくに考えていなかった   |

Q11. あなたは、次のような力が大学入学時にどの程度身につけていたと思いますか。また、1年間本学で学んで、その力がさらに身についたと思いますか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	大学入学時に				1年間学んで			
	身につけていなかった	身につけていなかった	やや身につけていた	身につけていた	身につけていなかった	身につけていなかった	やや身につけていた	身につけていた
1) 授業の重要なポイントをノートにまとめる力	1	2	3	4	1	2	3	4
2) 図書館の利用方法や文献を調べる力	1	2	3	4	1	2	3	4
3) パソコン等を使って文書や資料を作成する力	1	2	3	4	1	2	3	4
4) 自分の意見と事実を分けて書く力	1	2	3	4	1	2	3	4
5) 定められた形式に従ってレポートを書く力	1	2	3	4	1	2	3	4
6) 文献や資料を読んで要点を理解する力	1	2	3	4	1	2	3	4
7) 課題を解決する力	1	2	3	4	1	2	3	4
8) ものごとの問題点を発見する力	1	2	3	4	1	2	3	4
9) プレゼンテーションの力	1	2	3	4	1	2	3	4
10) 自分の意見を筋道立てて主張できる力	1	2	3	4	1	2	3	4
11) 科学的・数量的にものごとを見る力	1	2	3	4	1	2	3	4
12) ものごとに対して粘り強く取り組む力	1	2	3	4	1	2	3	4
13) 英語の能力	1	2	3	4	1	2	3	4
14) 英語以外の外国語(初修外国語)の能力	1	2	3	4	1	2	3	4
15) 異文化の人々に関する知識	1	2	3	4	1	2	3	4
16) 地域社会が直面する問題に対する理解	1	2	3	4	1	2	3	4
17) グローバル化による問題に対する理解	1	2	3	4	1	2	3	4
18) リーダーシップの能力	1	2	3	4	1	2	3	4
19) 人間関係を構築する能力	1	2	3	4	1	2	3	4
20) 批判的に考える力	1	2	3	4	1	2	3	4
21) 効果的に学習する技能	1	2	3	4	1	2	3	4

Q12. あなたは、本学の授業で次のような科目を履修しましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- |                                     |                              |
|-------------------------------------|------------------------------|
| 1. 同志社科目(建学の精神や理念にふれる科目)            | 6. 免許・資格課程科目(教職、学芸員、司書、司書教諭) |
| 2. 先端領域科目                           | 7. 体育実技(スポーツパフォーマンス)         |
| 3. 複合領域科目                           | 8. AKP 同志社留学生センター開設科目        |
| 4. プロジェクト科目                         | 9. キャリア形成支援科目                |
| 5. 初年次教育科目(少人数制で主に大学での学習方法について学ぶ科目) | 10. 国際教養科目                   |

Q13. あなたは本学の授業に対して、どのように取り組んでいますか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	全くしない	あまりしない	たまにする	よくする
1) 教員が黒板に書かなかったことでもノートを取る	1	2	3	4
2) 授業内容について教員に質問をする	1	2	3	4
3) 授業で出された課題はきちんと提出する	1	2	3	4
4) 授業内容について他の学生と議論する	1	2	3	4
5) 試験の前に時間をかけて勉強をする	1	2	3	4
6) 授業の予習や復習をする	1	2	3	4
7) 授業に遅刻や欠席をする	1	2	3	4
8) 欠席した授業の内容はすぐに補う	1	2	3	4
9) 授業を他の活動より優先する	1	2	3	4
10) 授業をつまらなく感じる	1	2	3	4
11) 業者の講義ノートを購入する	1	2	3	4

Q14. あなたがこれまでに受講した授業で、以下の授業形態・方法が取られたものがありましたか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	全くなかった	あまりなかった	時々あった	よくあった
1) 出欠の確認	1	2	3	4
2) ディスカッション	1	2	3	4
3) 学生によるプレゼンテーション	1	2	3	4
4) SA やTA(上級生や大学院生の補助)による助言	1	2	3	4
5) グループでの作業や活動	1	2	3	4
6) 定期的な習熟度チェック小テスト	1	2	3	4
7) 定期的な課題提出	1	2	3	4
8) 課題提出物の添削と返却	1	2	3	4
9) フィールド・ワーク	1	2	3	4
10) 体験学習	1	2	3	4
11) 実習・実験	1	2	3	4

Q15. あなたは、大学入学後に次のような経験をしたことがありますか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	経験したことがある	経験したことがない
1) 語学研修プログラムへの参加	1	2
2) 正規交換留学生として留学	1	2
3) 私費留学生として留学	1	2

Q16. あなたにとって、本学の授業は次の項目に対してどの程度役に立ちましたか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	役に立たなかった	あまり役に立たなかった	やや役に立った	役に立った
1) 大学生活での目的や目標の設定	1	2	3	4
2) 学問に対する動機づけ	1	2	3	4
3) 職業や進路選択の方向づけ	1	2	3	4
4) 探究心を持つこと	1	2	3	4
5) 社会問題への関心を持つこと	1	2	3	4
6) 多様なものの見方にふれること	1	2	3	4
7) 批判的精神を持つこと	1	2	3	4
8) 一般常識を身につけること	1	2	3	4
9) 協調性を持つこと	1	2	3	4
10) 大学生であるという自覚を持つこと	1	2	3	4
11) 愛校精神を持つこと	1	2	3	4
12) 自分に自信や肯定感を持つこと	1	2	3	4
13) リーダーシップを発揮すること	1	2	3	4
14) 国際的視野の獲得	1	2	3	4

Q17. あなたは次のことに対して、どのくらい満足していますか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	(履修から 利用し ていない)
1) 英語・外国語の授業	1	2	3	4	5	9
2) 全学共通教養教育科目の授業	1	2	3	4	5	9
3) 所属学部・学科の専門の授業	1	2	3	4	5	9
4) 教室の設備環境	1	2	3	4	5	9
5) 図書館の環境や設備	1	2	3	4	5	9
6) パソコンの利用環境	1	2	3	4	5	9
7) 免許・資格課程科目(教職、学芸員、 司書、司書教諭)の授業	1	2	3	4	5	9

Q18. あなたは、大学での学習についてどのように考えていますか。次のような意見について、あなたの考えに最も近いものをそれぞれ1つ選び、○をつけてください。

	そう 思わない	あまり そう 思わ ない	やや そう 思 う	そう 思 う
1) 大学で学ぶことは楽しい	1	2	3	4
2) 大学で学ぶこと自体に価値がある	1	2	3	4
3) 大学でよい成績をとることは重要だ	1	2	3	4
4) 大学で身につけた知識やスキルが将来の職業生活に役立つ	1	2	3	4
5) 大学を卒業すれば、よりよい条件の職業につくことができる	1	2	3	4
6) 大学で何を学んだかは就職活動の結果に関係がない	1	2	3	4

Q19. あなたは、大学生活のなかで、次のことに対してどのように感じていますか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	あてはまる	やや あてはまる	あまりあては まらない	あてはまらな い
1) 同じ学部・学科の友人がいる	1	2	3	4
2) 他の大学に通う友人がいる	1	2	3	4
3) 大学の教員と交流がある	1	2	3	4
4) 大学の一員だと感じる	1	2	3	4
5) 大学は気おくれして居心地が悪い	1	2	3	4
6) 大学はいつも退屈だ	1	2	3	4
7) 大学では毎日新しい発見がある	1	2	3	4

Q20. あなたは、次のような項目について、大学にもっと教えてほしいと思いますか、そうは思いませんか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	教 え て ほ し く な い	ど ち ら か と い え ば 教 え て ほ し く な い	ど ち ら か と い え ば 教 え て ほ し い	教 え て ほ し い
1) 大学の建学の精神や理念	1	2	3	4
2) 大学の歴史・伝統	1	2	3	4
3) カリキュラム編成や卒業単位の習得方法	1	2	3	4
4) 履修登録の具体的な方法	1	2	3	4
5) 大学内の施設・設備の利用方法	1	2	3	4
6) 大学で利用できる制度やサービス(留学、就職相談など)	1	2	3	4

Q21. あなたは、本学に対してどのくらい愛着がありますか。あてはまる番号に○をつけてください。

- |              |              |               |              |               |
|--------------|--------------|---------------|--------------|---------------|
| 1            | 2            | 3             | 4            | 5             |
| 非常に<br>愛着がある | かなり<br>愛着がある | ある程度<br>愛着がある | あまり<br>愛着がない | まったく<br>愛着がない |

Q22. あなたは、**今学期**、授業を何科目(コマ)登録しましたか。また、登録した授業のうち、7割(11回)以上出席した授業は何科目(コマ)ありましたか。休学等の理由で授業の登録を行わなかった場合は0(ゼロ)と記入してください。  
(注意:単位数ではありません)

1) 登録した授業		科目(コマ)
2) 7割(11回)以上出席した授業		科目(コマ)

Q23. あなたは授業期間中、**通常 1 週間に**約何時間、次の活動を行いましたか。まったくしなかった場合は、0(ゼロ)と記入してください。

1) 授業中以外の学習(授業の予習・復習、課題作成、 実験、リハーサル等)		時間 くらい
2) 仕事またはアルバイト		時間 くらい
3) クラブ・サークル活動		時間 くらい
4) 授業とは関係のない読書(漫画、趣味・娯楽雑誌を 除く)		時間 くらい

Q24. あなたは現在、クラブ・サークル等の団体に加入していますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 現在、加入している      2. 以前は加入していたが、現在は辞めている      3. 加入したことはない

Q26に進んでください。

Q25. あなたが加入している(していた)団体は次のどれですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。  
\* 複数の団体に加入している(していた)場合は、もっとも熱心に取り組んでいる(いた)団体についてお答えください。  
\* 「公認団体以外の学内団体」には、学生支援センター登録団体を含みます。

1	2	3	4	5
公認団体 体育会	公認団体 スポーツブロック	公認団体 文化系	公認団体以外 の学内団体	その他 (具体的に )

Q26. あなたは、本学の教育全般に満足していますか、それとも不満ですか。あてはまる番号に○をつけてください。

1	2	3	4	5
満足している	どちらかといえば 満足している	どちらともいえない	どちらかといえば 不満である	不満である

Q27. あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 民間企業に就職する	2. 公務員や教員として就職する	3. 自営業や家業を継ぐ
4. 大学院に進学する	5. 他大学に(編)入学する	6. 専門学校に進学する
7. まだわからない	8. その他(具体的に )	

Q28. あなたの大学入学後の学習・生活習慣について、あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	し な か っ た	し な か っ た あ ま り	た ま に し た	日 常 的 に し た
1) 図書館を利用する	1	2	3	4
2) 教科書以外の文献を読む	1	2	3	4
3) 新聞の政治面、経済面、国際面等を読む	1	2	3	4
4) 新聞、インターネット等で英文記事を読む	1	2	3	4
5) 学習の計画を立てる	1	2	3	4
6) インターネットで情報を収集する	1	2	3	4
7) パソコンを使って文書や資料を作成する	1	2	3	4
8) ボランティア活動をする	1	2	3	4
9) 新島襄や建学の精神にふれる大学の行事に参加する	1	2	3	4

学生 ID の記入について

学習支援・教育開発センターでは、みなさんが3年次を終えられる時点で同様の調査を実施し、大学1年生の時に感じられたことが、どのように変化したかを探ることを計画しています。今回の回答と3年次終了時点での回答を照合させることで、1年次と3年次間の変化を捉え、今後の教育改善の取り組みに役立てていきたいと考えております。

このような目的のため、学生IDの記入をお願いしています。もちろん、この調査は回答者個人を特定して分析するものではなく、学生全体としての傾向を把握するためのものです。したがって、調査の結果から個人情報に漏洩することは絶対にありません。

以上のような趣旨をご理解いただいたうえで、学生IDの利用に同意いただける方は下記の「1. 同意する」に○をつけ、あなたの学生IDの記入をお願いいたします。

1. 同意する

↓

ID

--	--	--	--	--	--	--	--

2. 同意しない

↓

無記名のまま提出してください。

本学の教育について意見があれば、自由に記入してください。

**ご協力ありがとうございました。**

※本アンケート調査項目の利用を希望される場合は、同志社大学学習支援・教育開発センター(ji-kyoik@mail.doshisha.ac.jp)までご連絡ください。

## 大学に進学した理由（Q9）

まず、本学学生がどのような理由で進学してきたのかを確認する。本調査では、図1に示したような10項目を設定し、各項目について「まったく重要ではない」から「非常に重要である」までの4段階の選択肢で質問している。

図1は、10項目ある進学した理由のそれぞれに対し、「いくらか重要である」と「非常に重要である」の合計（%）の多い順に並べている。大学進学の原因として、もっとも重視されているのは、「学生生活を楽しみたい」であり、以下「幅広い教養を身につけたい」「大卒の学歴を得たい」「大学で学ぶ内容に興味があった」といった理由がつづく。「就職に有利」「専門的知識を身につけたい」などの理由も、多くの学生が重視している。一方、「周りの人たちが進学するから」「親の希望」「資格を取るために必要だった」「すぐに働きたくない」といった理由の重要性は低い。

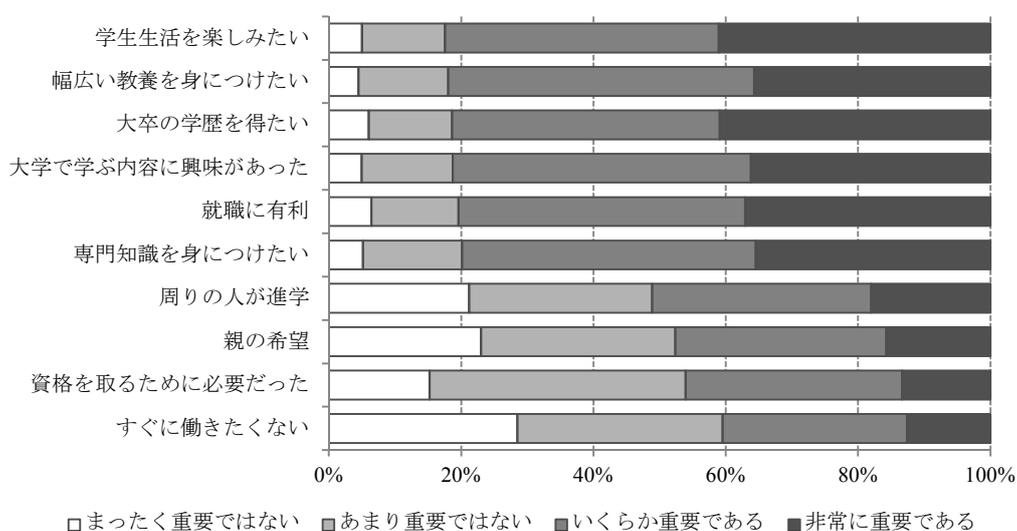


図1：大学進学理由

## 本学選択理由 (Q10)

ここでは志望校として本学を選択するにあたり、どのような点が重視されていたのかを検討する。Q10では、志望校として本学を選択する際に、重視した理由を列举し、該当する項目を複数選んでもらっている。図2は、回答した割合の多い順に項目を並べた。

本学の選択理由として多いのは、52.7%の学生が選択した「イメージが良い」である。第2位以降は、「自分の好きな分野を学べる (35.8%)」、「就職に有利である (34.1%)」、「京都の文化に触れたい (23.9%)」、「自宅から通学できる (22.4%)」、といった項目が続く。一方で、「研究面に優れた教員がいる (5.9%)」や「教員面に優れた教員がいる (5.1%)」を重視し、本学を志望した学生は少ない。

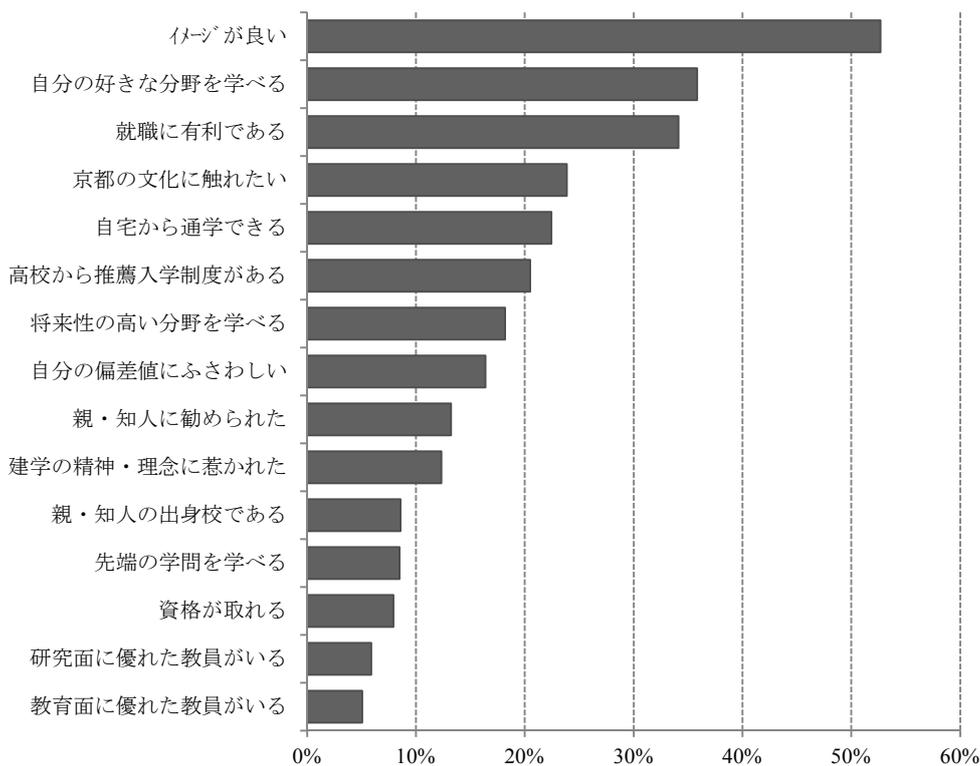


図2：本学選択理由

## 大学入学後に得た能力感 (Q11)

図3は、学生が大学入学から1年を経て、各知識・技能をどの程度、得たと認識しているのかを示している（回答の選択肢は、「身につかなかった」、「あまり身につかなかった」、「やや身についた」、「身についた」の4段階である）。

これによると、もっとも多くの学生が向上したと認識している能力感は、「パソコン等を使って文書や資料を作成する力」である。さらに、「定められた形式に従ってレポートを書く力」、「図書館の利用方法や文献を調べる力」などの項目も上位に位置している。

これらの項目に対して、相対的に下位に位置しているのが、「科学的・数量的にものごとを見る力」、「英語の能力」、「地域社会が直面する問題に対する理解」、「リーダーシップの能力」といった項目である。半数ほどの学生がこれらの能力向上感を得ることができなかった（「身につかなかった」と「あまり身につかなかった」の合計）ようである。

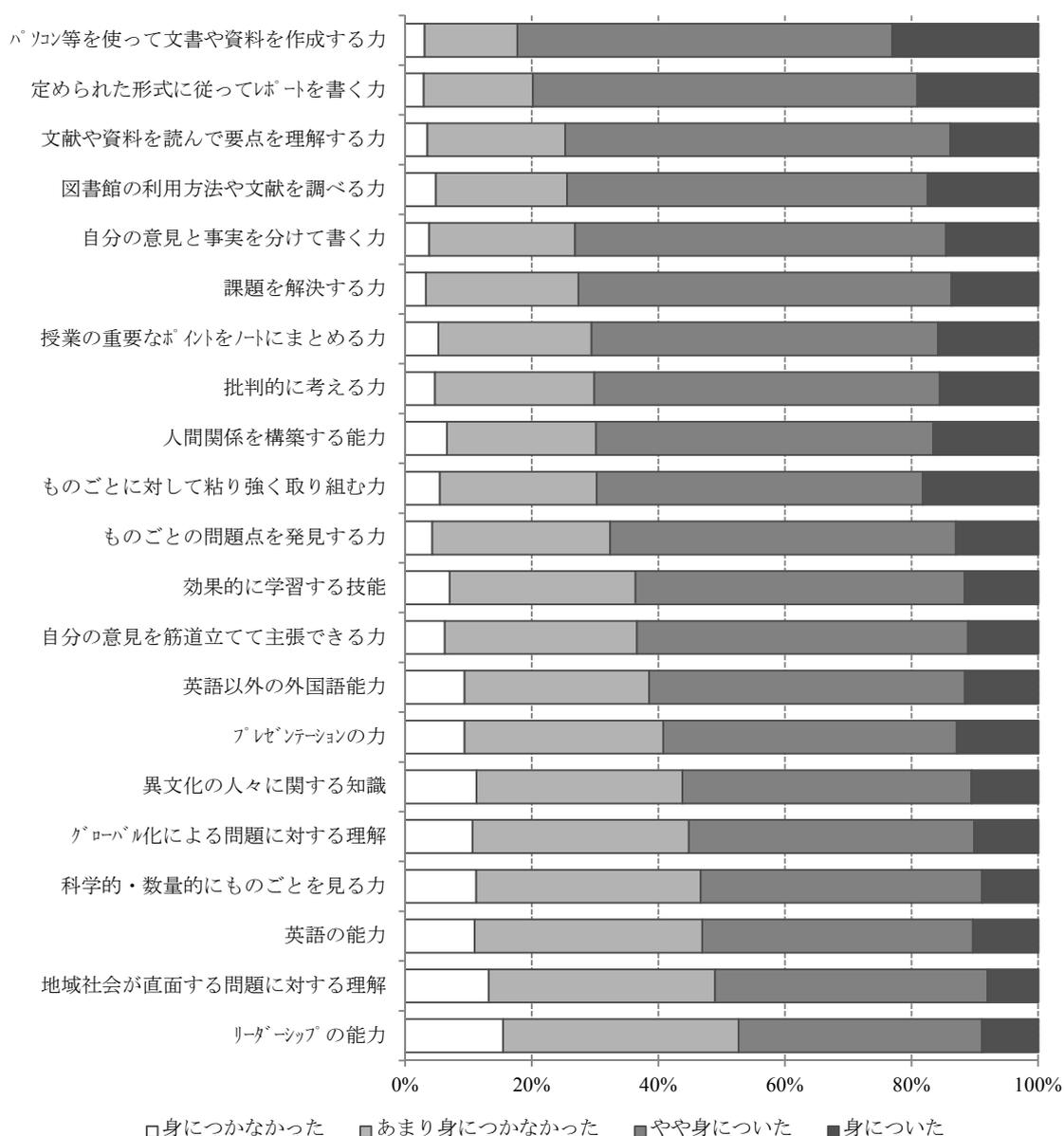


図3：1年間学んで得た能力感

## 授業の履修状況 (Q12)

図4は、全学共通教養教育科目を中心に特徴的な授業科目の履修状況を示している。回答の結果をみると、「同志社科目」を履修した学生は6割を超えている。一方、「体育実技」を履修した学生は3割となっており、昨年度と比べても大きな変化は認められない。

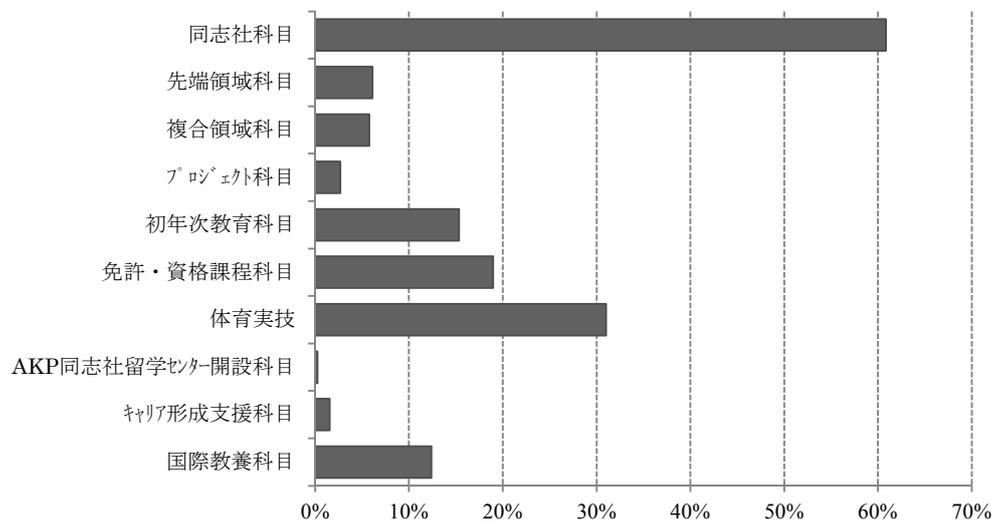


図4：履修した授業

## 授業に対する取り組み (Q13)

大学教育に課された役割は、学生に知識・技能を一方向的に伝達するだけではない。学生に対して積極的、主体的、能動的な学習を促進させることも大学教育の重要な役割である。ここでは、学生の授業への取り組み状況について確認する。Q13は、学生の授業への取り組みを捉えるため、11の項目を設定し、4段階（「全くしない」、「あまりしない」、「たまにする」、「よくする」）で質問している。

図5は、授業への取り組みの実行頻度が多い順に項目を並べたものである。ここから、「授業で出された課題はきちんと提出する」ことに対して「全くしない」と回答した学生はわずか2.4%となっており、86.7%の学生は実行（「たまにする」「よくする」）していることがわかる。「教員が黒板に書かなかったことでもノートに取る」ことや「試験前に時間をかけて勉強をする」ことについても、多くの学生は実行しているようだ。また、「遅刻・欠席をする」ことについて、「よくする」と回答した学生は9.6%と少ない。「予習・復習をする」ことに対し、「たまにする」もしくは「よくする」と回答した学生は、半数弱（45.4%）となっている。また「授業内容について教員に質問する」は6.3%が「よくする」、24.4%が「全くしない」と回答している。

こうした分析結果から、本学学生の多くは、授業に対し、まじめに取り組んでいるものの、積極的、主体的、能動的な学習に関して、それほど活発ではないと推察される。

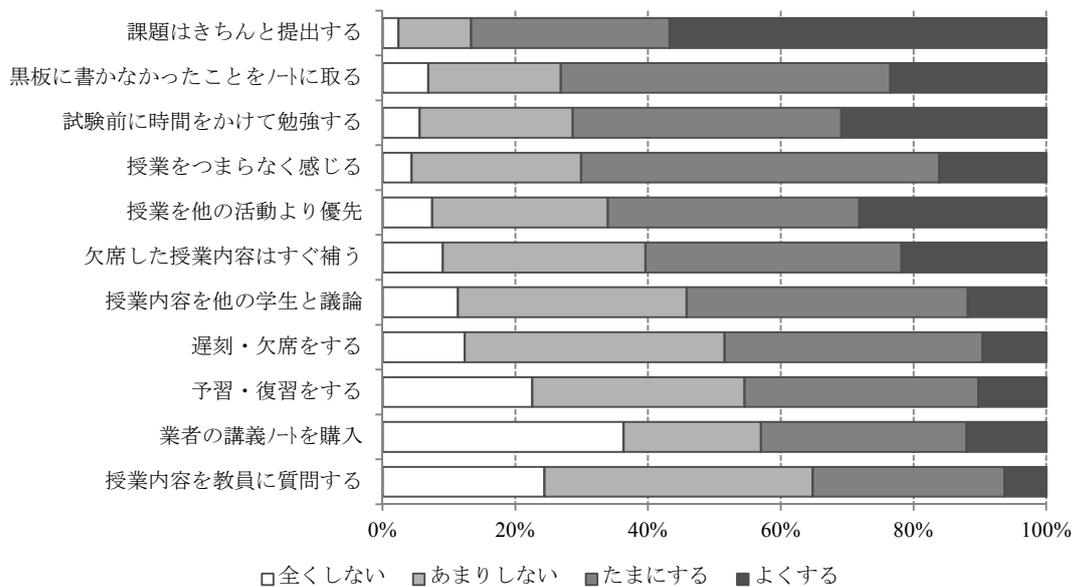


図5：授業に対する取り組み

## 授業の形態・方法 (Q14)

ここでは、これまでに受講した授業の形態・方法について検討する。回答結果をまとめた図6から「出欠の確認」、「定期的な課題提出」、「習熟度チェック小テスト」、「グループでの作業や活動」は日常的に実施されていることが確認できる。その一方、4割前後の学生が「フィールド・ワーク」、「体験学習」、「実習・実験」といった形態の授業を全く経験していないことも示される。

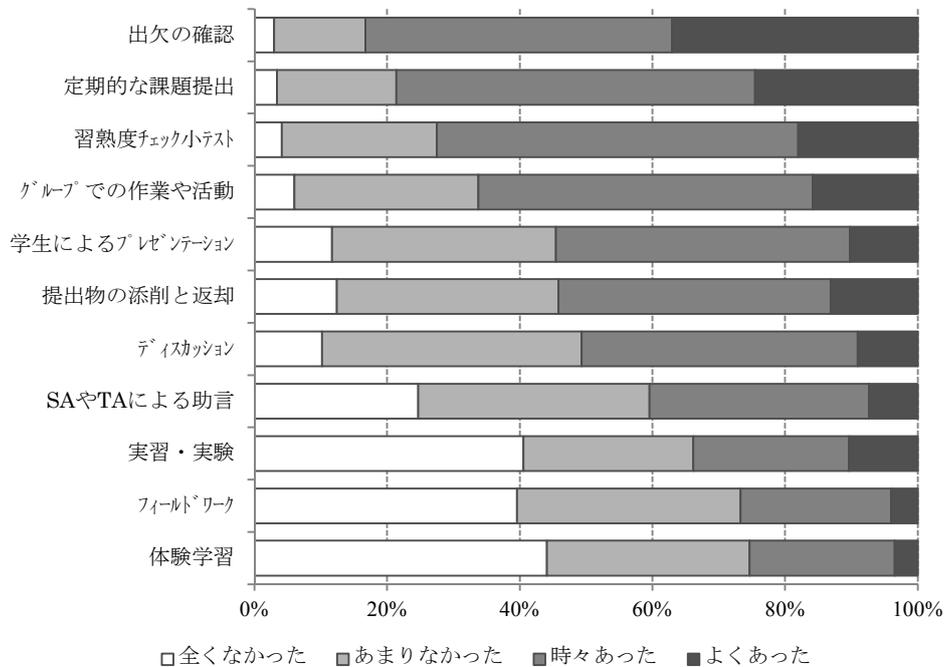


図6：授業の形態・方法

## 留学等の経験 (Q15)

図7は、大学入学後の留学等の経験を示す。留学経験のある学生は、ごく一部に限定されており、「語学研修プログラムへの参加」が6.6%、「正規交換留学生として留学」が3.6%、「私費留学生として留学」が5.4%であった。

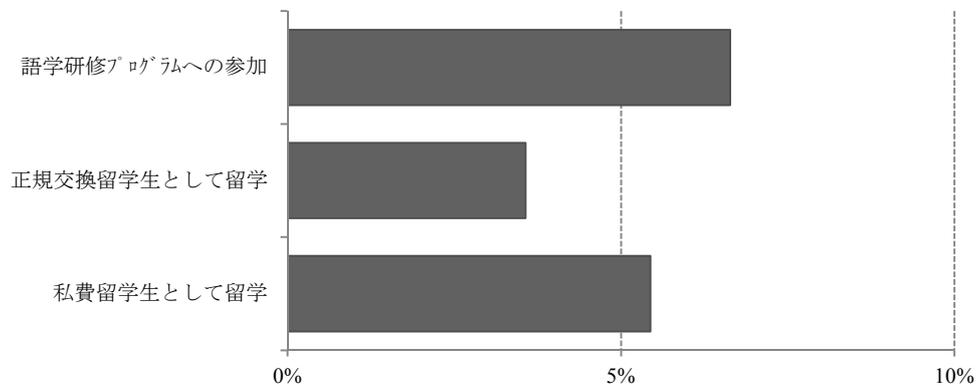


図7：留学等の経験

## 授業に対する評価 (Q16)

図8は、大学の授業内容がどの程度役立ったのかを、14項目にわたって示している。回答結果の集計をみると、「多様なものの見方にふれること」に対しては、8割近い学生が役立ったと考えていることがわかる（「役に立った」と「やや役に立った」の合計）。さらに、「一般常識を身につけること」や「大学生としての自覚を持つこと」についても、本学の授業内容が役立ったと学生は評価しているようだ。高校までの授業スタイルと異なる大学の授業を受講するなかで、多くの学生は大学生としての自覚を実感しているのだろう。

その一方で、「リーダーシップを発揮すること」については、半数以上の学生が役に立たなかった（「役に立たなかった」と「あまり役に立たなかった」の合計）と評価しているようだ。これは、通常の授業において、そのような機会が得にくいということの意味しているのだろう。

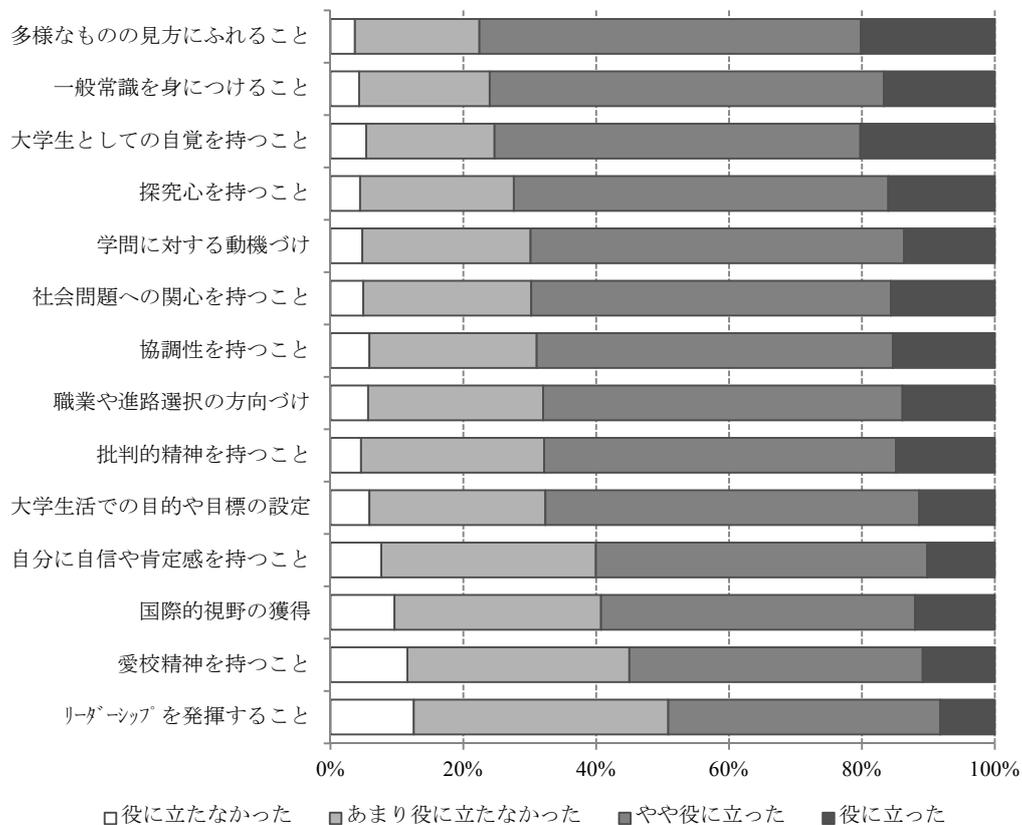


図8：授業に対する評価

## 大学教育の価値 (Q18)

次に、学生が大学教育に対してどのように考えているのかを検討する。図9は、大学での学びや大学教育の職業的価値の回答傾向を示す。学生の多くは大学教育を肯定的に捉えており、「大学で学ぶことは楽しい」、「大学で学ぶこと自体に価値がある」、「大学でよい成績をとることは重要だ」に対し、7割以上の学生が肯定的に考えている（「ややそう思う」と「そう思う」の合計）。

大学教育の職業的価値（「大学で身につけた知識やスキルが将来の職業生活に役立つ」、「大学を卒業すれば、よりよい条件の職業につくことができる」）についても、7割以上の学生は肯定的に考えている一方で、「大学で何を学んだかは就職活動の結果に関係ない」という意見を肯定する学生は44.5%となっている。

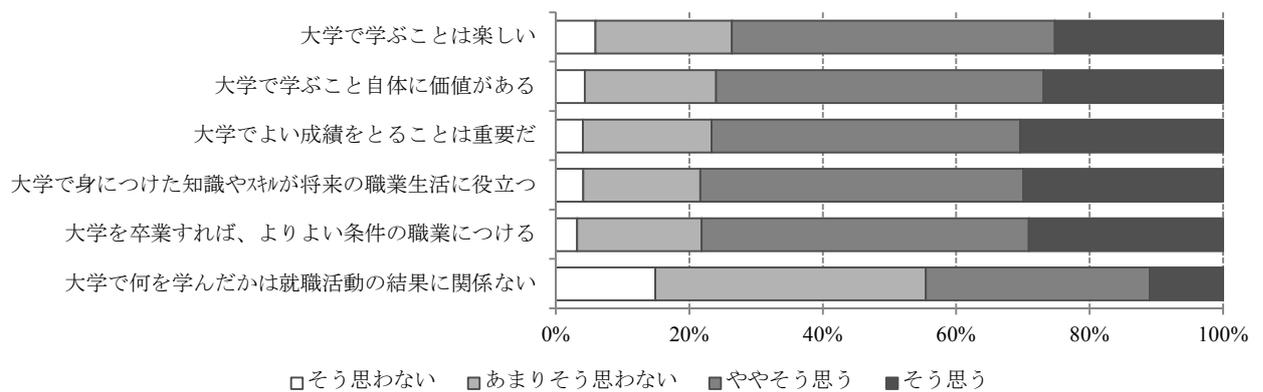


図9：大学教育の価値

## 大学への適応状況 (Q19)

図10は、友人・教員との関係や、大学生活を過ごすなかで日常的に感じる意識を集計したものである。「同じ学部・学科の友人がいる」は、6割を超える学生が「あてはまる」と回答している。「大学の教員と交流がある」は、4割弱しか肯定的な回答（「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計）をしていない。全学共通教養教育科目や外国語科目の履修が中心である1年次において、教員とコミュニケーションを図る機会はそれほど多くないのであろう。「大学は気おくれして居心地が悪い」や「大学はいつも退屈だ」に対する肯定的な回答は4割未満となっており、多くの学生は大学生活を満喫しているといえる。

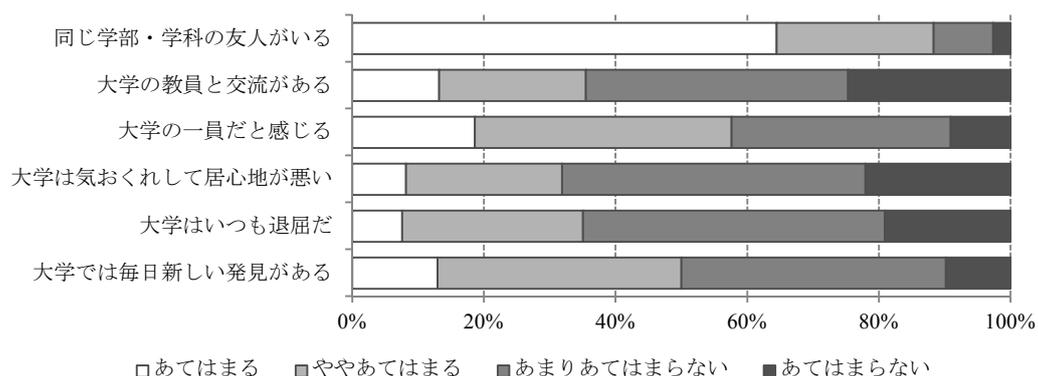


図10：大学への適応

## 大学に対する要望 (Q20)

ここでは、大学生活を1年過ごし、学生が大学にどのような要望を持っているのかを確認する。図11は、大学に対する学生の要望を捉えるため、6つの項目に対する回答傾向を示す。

「大学の建学の精神や理念」ならびに「大学の歴史・伝統」についての回答傾向は類似しており、「教えてほしい」と回答している学生は、両方とも1割弱にとどまる。単位習得や履修登録の方法に関しては、35%前後の学生が「教えてほしい」と回答している。また、大学における施設等の利用を「教えてほしい」と回答する学生も先と類似した回答傾向を示した。ラーニング・コモンズをはじめとした学内の施設・設備の利用方法が、学生に対し、積極的に発信されることを期待したい。

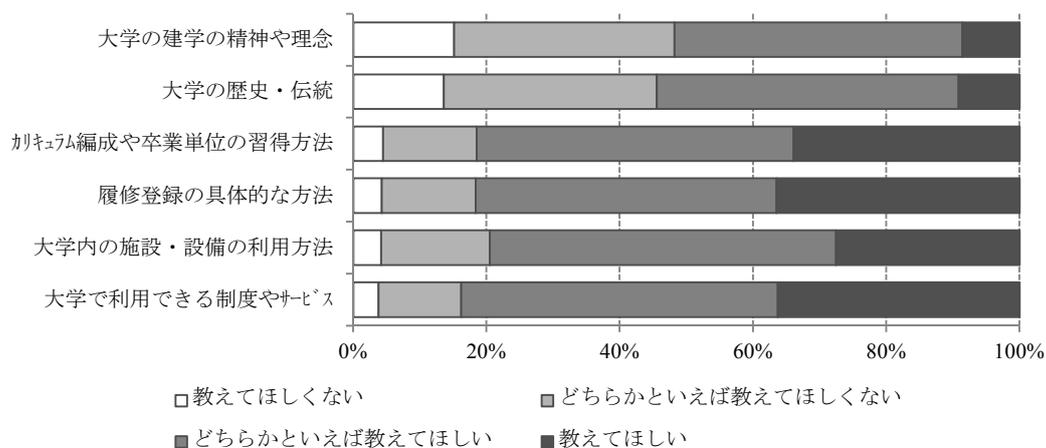


図11：大学に対する要望

## 学習習慣・生活習慣 (Q28)

図 12 は、大学入学後の学習習慣・生活習慣に関する各項目の回答結果をまとめたものである。これによると、図書館の利用経験がない学生はごくわずか (5.1%) であり、学生はよく図書館を利用しているようだ。また、多くの学生が「教科書以外の文献」や「新聞の政治面、経済面、国際面」を読んでいることもわかった (「しなかった」と回答した学生の割合は、18.3%)。こうしたことに比べ、「新聞、インターネット等で英文記事」を読む学生は限られている。

他方、ボランティア活動や建学の精神にふれる大学行事に参加した学生は半数ほどにとどまっている。

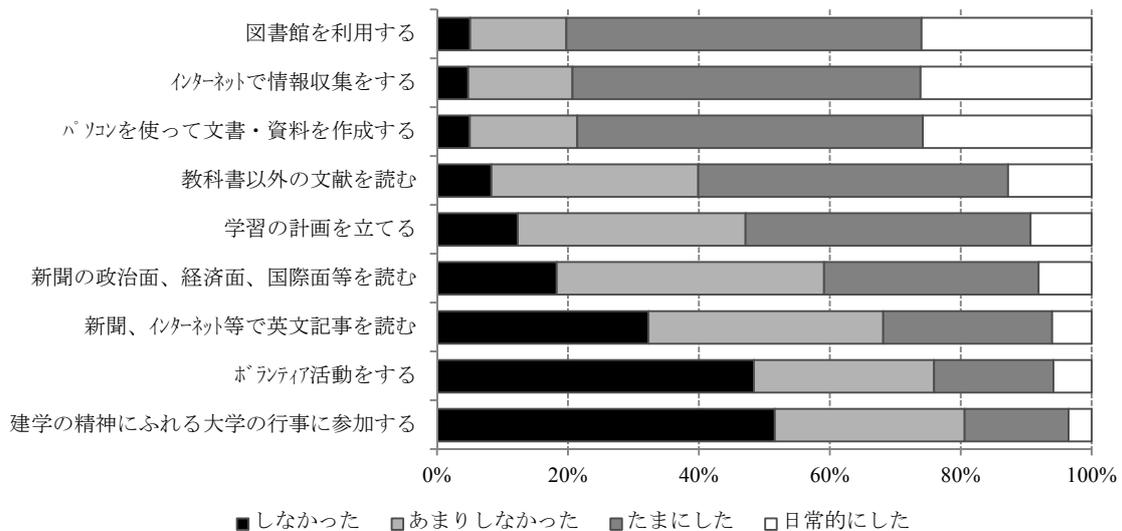


図 12 : 学習行動・生活習慣

## 授業外学習, アルバイト, クラブ・サークル時間 (Q23)

ここでは授業外学習, アルバイト, クラブ・サークル時間について検討する。図 13 は, それぞれの一週間あたりの平均時間を示している。授業外学習時間は 4.67 時間, アルバイト時間は 9.24 時間, クラブ・サークル時間は 8.23 時間となっている。

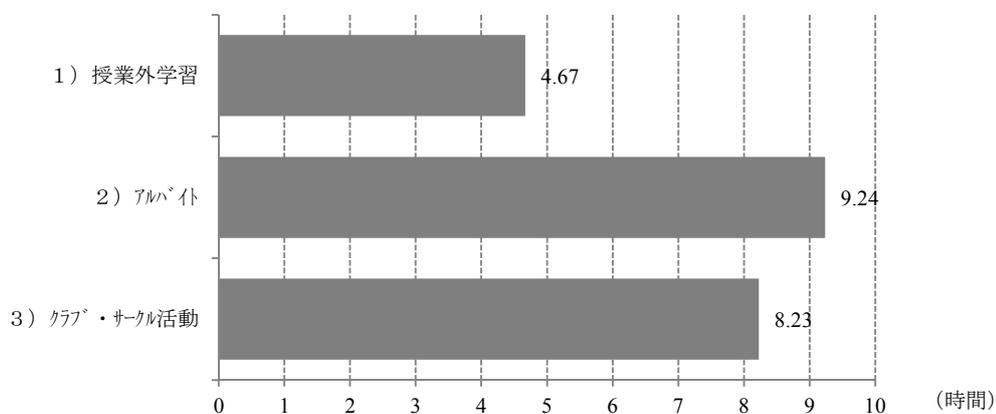


図 13 : 一週間あたりの授業外学習時間 (平均)

## クラブ・サークル活動 (Q24・25)

図 14 は、クラブ・サークルへの加入状況を示している。学生全体の加入状況を見ると、72.1%の学生が何らかのクラブ・サークルに加入していることがわかる。

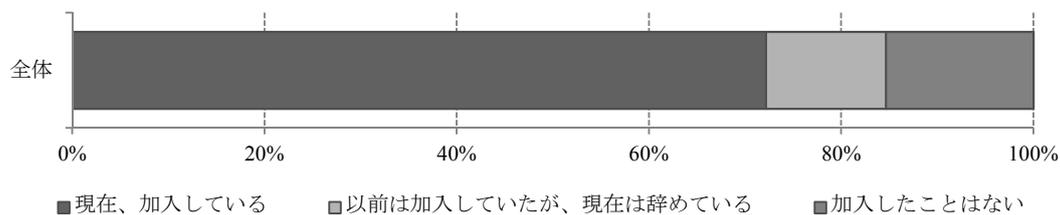


図 14 : クラブ・サークル等への加入状況

では、学生の加入するクラブ・サークル団体の種別はどのような内訳となっているのだろうか。図 15 は、先にみたクラブ・サークルへ「現在、加入している」「以前は加入していたが、現在は辞めている」と回答した学生の加入団体の種別を示している。もっとも学生が加入している団体種別は、「公認団体：文化系」(39.3%)であった。

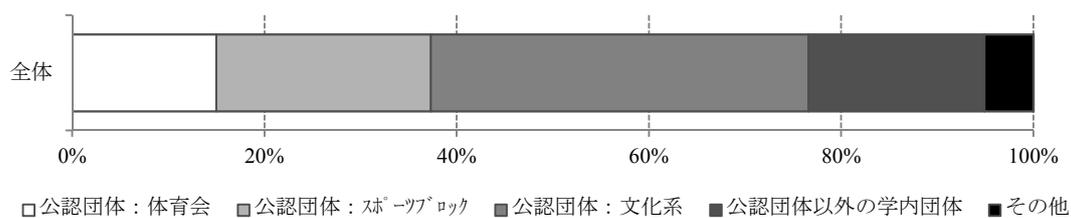


図 15 : 加入団体の種別

## 満足度 (Q26・17)

ここでは、学生が本学の教育に対し、どのように評価しているのかを確認する。図16は、教育全般に対する満足度を示したものである。全体において、「満足」、「どちらかといえば満足」と回答した学生は、6割を超えており、「どちらかといえば不満」、「不満」とする学生は1割に満たない。

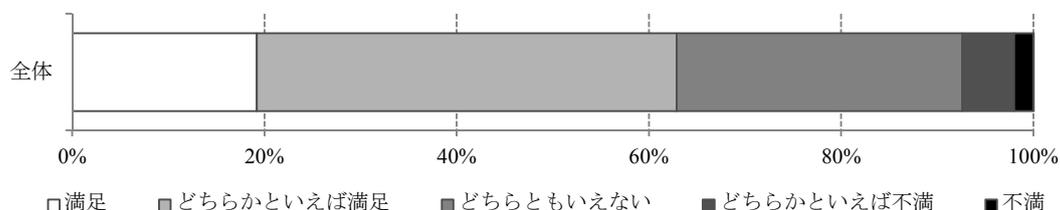


図16: 教育全般に対する満足度

つぎに、領域別の満足度について確認する。図17は、大学の設備環境や授業科目に対する満足度を5段階で示している。「図書館の環境や設備」に関して、69.5%の学生が満足（「満足」＋「やや満足」）しており、不満（「やや不満」＋「不満」）は9.5%である。「パソコンの利用環境」や「教室設備」も、ほぼ6割の学生が満足していることがわかる。一方、「全学共通教養教育科目の授業」や「英語・外国語の授業」への満足度は、他項目とくらべ相対的に低く、5割に満たない（46.6%、46.6%）。こうした状況に対し、何らかの対策が必要といえるだろう。

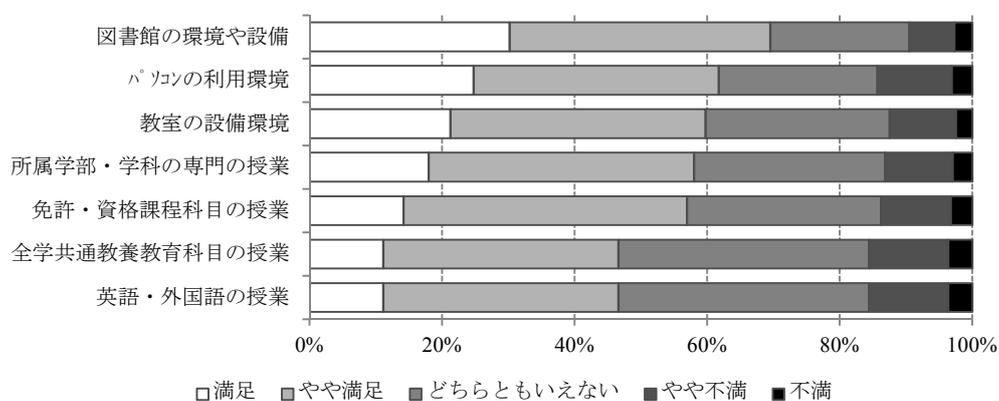


図17: 領域別満足度

## 大学に対する愛着（Q21）

図 18 は、本学に対する愛着の度合いを示している。全体として「非常に愛着がある」と回答した学生は 10.7%、「かなり愛着がある」と回答した学生は 19.5%、「ある程度愛着がある」と回答した学生は 55.2%となっており、学生の本学に対する愛着は基本的に高いといえる。

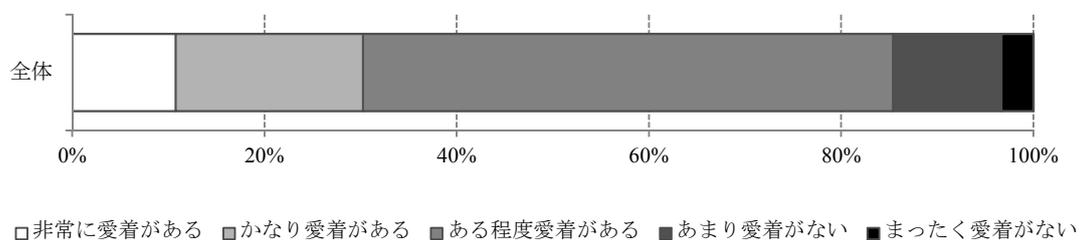


図 18：大学に対する愛着

## 希望する進路 (Q27)

図 19 は男女別で卒業後の希望進路を示している。全体としての大きな特徴は、男性の方が「大学院進学」を希望する傾向（男性 14.1%、女性 9.1%）、女性の方が「わからない」と答える傾向（男性 24.7%、女性 31.6%）にあることだ。大学に入学してから 1 年しか経っていない時点においても、ジェンダー的要因が卒業後の希望進路に関連しているといえそうだ。

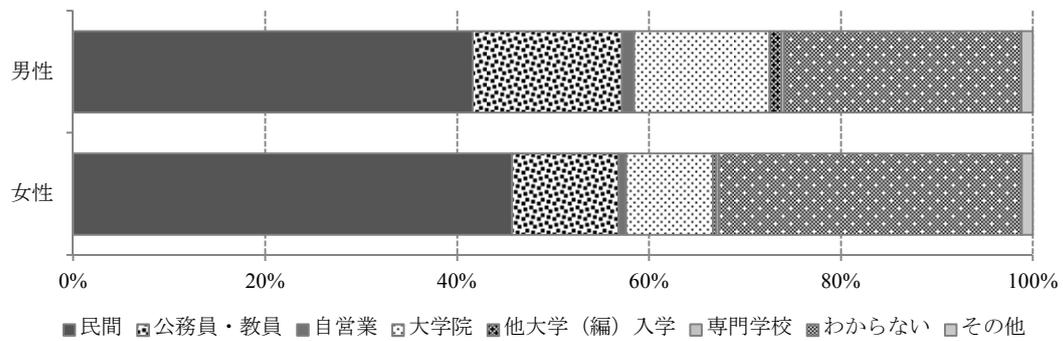


図 19 : 希望する進路